

(様式)

議会運営委員会行政視察報告書

委員会名	議会運営委員会	委員名	まじま 隆英
視察地	北海道登別市		
調査事項	オンラインを活用した委員会・本会議について		
視察年月日	2024年10月16日		
視察内容	※辻弘之議長様に公務でお忙しい中ご説明いただきましたこと、感謝申し上げます。 【概要】 (経緯等について) ・議会改革ランキングで1位。オンライン委員会実施は積み上げてきた事の1つ。 ・議会基本条例に基づき自己評価を行っている。条例についても常に見直しを行っている。 ・開かれた議会を追求し、その成果を捉えている。 (議会改革等について) ・平成12年度のIT化推進から始めた。平成18年度に議会改革推進委員会設置。平成19年度から本格的に実施し始めた。平成21年度から議会中継開始。平成23年度に議会基本条例制定。平成30年度傍聴規則改正し乳幼児入場・撮影自由化を行っている。 ・令和2年度から完全ペーパーレス化。サイボウズオフィス導入。令和3年度オンライン委員会。令和5～6年度オンライン一般質問を規定し実現している。 【オンライン委員会活用の状況について】 ・委員会は基本参集して行う。特別な場合にオンラインを活用することとしている。多様性を認め議論が深まるように。委員会条例で定め出席扱い（地方自治の範囲内）とし、採決にも参加できる。本会議は総務省見解により法律上欠席扱いとなる。 ・オンライン会議の場合、指名されてからの発言なので声が重ならないため有効な手段との事。カメラワークも難しくはないと説明を受けた。 ・本会議利用については出席としては認められないという見解であるが、一般質問については地方自治体で決めてよい（令和5年総務省）ことから実施している。ただし、現在は議決行為には参加できない事になっている。 ・オンラインについてはあらかじめ対応してきたとの事。合理的な配慮を考えた結果、議員にとっても良い環境をつくることにつながった。オンライン委員会の目的は多様性ある議会実現のためというコンセプトを議員全員で共有してきている。 ・オンライン活用は会議規則で実施の特例という位置付けとしている。特例として想定されることを盛り込み、時代の流れに合わせ広げていくことも必要と感じました。 【調査結果に対する意見等について】 ・登別市議会が行ってきた議会改革について学ばせていただきました。多様性ある議会を目指し、試行錯誤であったとしても一歩踏み出すことを重視している姿勢は見習う必要があると感じました。旭川市議会においても育児など想定される状況があることから、早急な対応が求められると考えます。 ・デジタル技術が広く認識されるようになっていきます。私たちのタブレット活用も進んできたことから、今度は旭川市議会として円滑なオンライン化への対応が必要と考えます。出席や		

(様式)

欠席に関わる国における考え方はありますが、地方自治で認められているところから導入することは必要だと感じました。

- ・登別市議会における経費については、WEB会議用カメラ7,480円、集音マイク38,500円、WEB会議サービスライセンス料（年間・ZOOM）39,996円と説明を受けました。高額ではないと受け止めましたことから、来年度実施に向けた整備が必要と感じました。

※ 「視察内容」欄には、調査結果に対する意見、本市における実施の可能性、課題等を記載すること。